

三愛 view

発行所：三船病院相談室
 創刊日：2003年8月15日
 〒763-0073
 香川県丸亀市柞原町366
 Tel 0877-23-2341
 Fax 0877-23-2344



「院内全面禁煙について」

三船病院 医局長 森 秀徳

平成15年の健康増進法の施行や平成17年の「たばこの規制に関する世界保健機関(WHO)枠組条約」の発効を契機に、国民の健康への意識が高まり、喫煙者は年々減少傾向にあります。公共施設を中心に禁煙化や分煙化が進み、どこに行ってもたばこが吸えないのは当たり前といった状況になっています。また、たばこが値上がりしていることは、禁煙を始めるきっかけになっているようです。

全国の医療機関においても同様に禁煙化が推進されてきましたが、精神科病院においては、「禁煙すると精神症状が不安定になる」「精神科での禁煙化は難しい」といった予測を根拠に、なかなか禁煙化が進まない現状がありました。「精神科だから仕方ない」というイメージが強く、積極的に禁煙化を検討することすらほとんどなかったのです。それでも、喫煙による健康被害に対する理解が深まるにつれ、最近では既に禁煙化をしている、もしくは禁煙化を予定している精神科病院が増えてきています。

喫煙による問題の中でも、とりわけ近年大きな問題になっているのが受動喫煙です。健康増進法第25条では、多数の者が利用する施設の管理者に対し、受動喫煙を防止するための必要な措置を講ずるように求めています。あくまで罰則のない努力義務でした。厚生労働省は、職場における受動喫煙防止対策に関する検討会を重ね、平成28年10月には施設管理者や喫煙者を罰則付きで規制する法整備のたたき台を示しました。それによると、2020年(平成32年)の東京オリンピック、パラリンピックに向け、官公庁や社会福祉施設などは「建物内禁煙」、未成年者や患者様が主に利用する学校や医療機関はより厳しい「敷地内禁煙」とするとされています。学校や医療機関の利用者は禁煙場所で喫煙しない義務があり、違反者が警告や命令に従わないと、過料などの罰則が適用されるのです。厚生労働省研究班は受動喫煙による国内の死亡者を年1万5千人と推計している、従来の努力義務よりも実効性の高い制度を目指すとしているので、私たちもこれまで以上に意識を高める必要があります。

このような流れの中で、三船病院でも院内全面禁煙に向けて進めていくことになりました。現在ある6病棟のうち、認知症治療病棟など3病棟は既に禁煙としていますが、喫煙可能な残りの3病棟(南館にある病棟)も禁煙となります。急性期治療病棟も例外ではありません。もちろん、病院として患者様や職員の健康を守ることが最大の目的ですが、たばこの影響としてあまり知られていない事実がいくつかあります。たとえば、たばこをやめることで精神症状が不安定になるというのは科学的根拠がありません。ニコチンの作用が切れることでイライラして落ち着かなくなり、落ち着かすためにさらにたばこを吸うという悪循環になっているだけなのです。意外かも知れませんが、禁煙化に成功した某精神科病院の話では、禁煙によって実際に精神症状が不安定になった患者様はほとんどいなかったということです。また、精神的しんどさの原因が、実は肺気腫などになったことによる呼吸苦というケースもあります。その場合は禁煙することでしんどさが解消されます。さらに、向精神病薬の中には、たばこの影響で作用が減弱してしまうものもあります。せっかく正しく服用していても、たばこが邪魔をして十分な効果が得られなくなることがあるのです。

三船病院の院内全面禁煙開始日は、WHOの世界禁煙デーに合わせて、平成29年5月31日です。ポスターによる啓発活動、患者様への個別指導、職員への院内教育などを行い、周知を進めていく予定です。ご理解とご協力の程、よろしくご協力致します。





三船病院医事課の取り組みについて

三船病院 医事課

医療事務は、診療報酬明細書の作成と受付業務を中心とする、医療専門の事務のお仕事であり、患者様と医療スタッフとの間を繋ぐ役目をするのも仕事のひとつです。

外来の窓口受付では、来られた患者様が初診か再診かを確認し、初診であれば患者様に症状をお聞きし、保険証を預かり名前や生年月日を確認、番号札を渡し、カルテを作成します。お話を伺った際に他の医療機関に通院されていた場合は、紹介状の有無の確認も必要となります。場合によっては、紹介状をお持ちいただけるようお願いする場合があります。再診の場合は、診察券を受取り、番号札をお渡しします。

その後は、主治医を確認(再診の場合)して、外来受付を行い「受付票」を発行し、患者様にお渡しした番号札と同じ番号のファイルに挿み外来スタッフへ渡します。その際、初診の患者様の情報や受付の際患者様から伺った情報を外来スタッフに伝えることや、受付の際お預かりする保険証等の個人情報の保護に留意することも重要です。

日々の業務を通して、病院を訪れる患者様の状況や質問は多岐に渡っていると感じています。そのため、その都度臨機応変に対応することが大切だと実感しています。

患者様の症状を丁寧に聞き外来スタッフに伝えることや、質問にわかりやすく答えることを心がけていますが、忙しい時や請求時期等に聞き漏れや伝え忘れなどによりスタッフ間の情報の伝達が思うようにいかないことがあり、伝えることの難しさを実感することが多々あります。そのことで患者様やご家族にご迷惑をおかけしてしまうこともあり、今後の課題だと考えております。

昨年より事務職員の退職に伴い新人職員が増えたため、これまで時間をかけて築いてきた患者様やご家族・他部署のスタッフとの関係も少しずつ変わってきています。患者様やご家族・スタッフとさらなる信頼関係を築く為に、一人一人の状況に合わせた対応が出来るように、丁寧な対応を心がけ、事務所内・他部署を問わずスタッフ間の情報交換を密にしていきたいと思っております。

三船病院医師からのメッセージ・・・



「カサカサ カユカユの季節には・・・」

三船病院 医師 河野 禎子

冬の乾燥は肌の大敵ですね。乾燥すると皮膚のバリア機能が低下し、ちょっとした刺激でも痒くなりやすくなります。この季節によく見られるのが、皮脂欠乏性湿疹です。皮膚がカサカサして白い粉を吹いたようになり、悪化すると赤い湿疹がみられるようになります。

こうした乾燥の予防には毎日の保湿ケアが重要なのはもちろんですが、湿疹になってしまった場合は、ステロイド外用薬などを使用して、適切な治療をすることが必要になります。ステロイド外用薬は、優れた抗炎症作用を持ち、様々な病態に使用されますが、病気の種類や症状、部位に応じて、上手に使い分ける必要があります。強さのランクが5段階あり、強い方から、Strongest(ダイアコートなど)、Very strong(マイザーなど)、Strong(ベトネベートなど)、Mild(キンダベートなど)、Weakに分類されます。だいたい、体(首より下)であれば、Strongクラスあたりから使用することが多いですが、炎症が強ければVery Strongクラス以上のものを使用するなど使い分けます。また、体の部位によって吸収率に違いがあるため、顔や陰部など、皮膚が薄く吸収がよい部位には1ランク弱めものを使用します。子供や高齢者は皮膚が薄く、ステロイドの吸収が良いため、全体的に強さを落とします。副作用としては、皮膚萎縮(皮膚が薄くなる)、毛細血管拡張、免疫抑制による感染症の悪化などがあるので、使用量を守り、長期に使用しすぎないなど注意が必要です。

ステロイドの使用は医師と相談のもと、種類や塗り方など正しく使用して、健やかな肌を守っていきましょう。

三愛会 トピックス

★第40回相談室セミナー

昨年12月1日(木)に相談室セミナーを開催しました。中讃保健福祉事務所よりキャラバン隊をお招きして、地域で暮らす当事者の方から退院後の生活の楽しみや日々苦勞されていることなど、たくさんのお話を伺いました。参加された皆さまは、自分のことをキャラバン隊の方々に相談してアドバイスを受けたり、たくさん質問がでたりと、活発な意見交換がなされてとても充実した時間になりました。



三船病院 委員会活動紹介

★三船病院クリスマス会

昨年12月21日に毎年恒例のクリスマス会を開催しました。ピーチパインパラダイスの皆さまをゲストにお招きし豪華な演奏に会場はつまれ、たいへん盛り上がりしました。ハンドベルの演奏を聴いたり、クリスマスケーキと一緒に食べたりと、会場全体でクリスマスの雰囲気を感じながら楽しい時間を過ごすことができました。



薬事審議委員会

委員長 薬局長 直江 正保

薬事審議委員会は医師と薬剤師で構成され、毎月第2金曜日に開催しています。審議内容は、

- ①新規採用医薬品の検討; 今後当院で採用の必要がある薬について検討します。薬の効果や副作用、安全性、薬価等の確認を行い、同時に同効薬の薬があればその薬の整理(入れ替え)も検討します。
- ②後発薬品(ジェネリック薬品)への切り替えの検討; ジェネリック薬品に切り替えることで、薬を安価に患者様に提供できます。当院ではジェネリック薬品を積極的に使用する方針です。
- ③医薬品管理状況の報告; 在庫薬品の使用期限の点検を毎月月末に実施し、使用期限の把握を行っています。有効期限が短くなった医薬品を紹介し、出来るだけ

廃棄を避けるよう努めています。

- ④メーカーからの通達の紹介; 医薬品の情報は変わることがあります(用法・用量の変更、適応症の追加や削除、副作用の追加等)。この情報を紹介し、安全な使用に繋げています。
- ⑤副作用報告; 院内で副作用が発見されれば、委員会で提示し更に厚労省へ報告します。長年に渡る使用や使用例数が増えることで、今まで見つけられなかった副作用が発見される場合があります。厚労省はこうした報告を集めて副作用状況を分析し、必要に応じてメーカーへ対応しております。

委員会活動を通して、患者様へ安全な薬物治療を提供できるよう努力していきたいと思っています。

《委員会》

- ・教育委員会(第1水曜日)
- ・個人情報保護委員会(第1水曜日)
- ・情報システム委員会(第1水曜日)
- ・クリニカルパス委員会(第1水曜日)
- ・地域生活支援委員会(第1水曜日)
- ・行動制限最小化委員会(第1金曜日)
- ・人権委員会(第1金曜日)
- ・医療安全管理委員会(第2水曜日)
- ・衛生委員会(第2水曜日)
- ・業務改善委員会(第2水曜日)
- ・診療録管理委員会(第2金曜日)
- ・薬事審議委員会(第2金曜日)
- ・院内感染対策委員会(第3金曜日)
- ・栄養管理委員会(第2水曜日)
- ・褥瘡予防対策委員会(第2水曜日)
- ・患者サービス向上委員会(第2水曜日)
- ・病院機能評価委員会(水曜日)
- ・倫理委員会(年1回)
- ・医療ガス安全管理委員会(年1回)
- ・予算管理委員会(年1回)
- ・接遇管理委員会(年2回)
- ・診療情報提供委員会(随時)



【介護老人保健施設 福寿荘】

「福寿荘におけるターミナルケアの取り組みについて」

看護師 氏家 光代

介護老人保健施設は、在宅復帰を主目的とし、医療管理された状態で機能訓練・理学療法を行う中間施設として位置付けられています。介護保険にてターミナルケアが開始となったのは平成 21 年からです。開始当初は必要書類などについて話し合いながら始めたのを覚えています。

施設において看取り看護・介護とは、終末期の人が死を迎えるまで、できるだけ物理的・精神的な苦痛を緩和・軽減し、人間らしい生を全うしてもらうためのケアです。それまで過ごしてきた場所で、家族をはじめ看護・介護スタッフなどに見守られながら安心して死を迎えられることが大切だと思います。そのためには、スタッフ一同の情報共有や家族の方とのコミュニケーションが大切です。介護老人保健施設の特徴ともいえる多職種連携が、最大限に生かされるようにカンファレンスを行っています。

ターミナルケアはとても大事なことですが、それを特別なことと構えず、日々の看護・介護の延長と考えることも大切だと思います。若い介護職員の中には初めて看取りを経験する人もいます。安心して介護が出来るように医師・看護師が適切な情報を伝えるよう心掛けています。そして、最期の看取りを終えた時には家族の方、職員一同これで良かったと思えるようにしていきたいと思います。

今後も高齢の方が多いため、ターミナルケアが増えてくるのではないかと思います。一つ一つの経験を生かしてさらなる良いターミナルケアに繋げていこうと思います。



【三愛会コミュニティケアセンター】

「平成 30 年の障害者総合支援法の改正と相談支援事業所はなぞの取り組み」

相談支援専門員 大谷 尚広

昨年のことになりますが、5 月の通常国会において、重要な法案が与野党の協力のもと通過しました。それは、平成 30 年に施行を予定している改正障害者総合支援法です。今回は、その法改正の中に記載されている「地域生活支援拠点等の整備」について、簡単に説明させていただきます。

三船病院でも取り組んでいるダウンサイジング、その地域移行を推し進める中で、障害者の重度化や高齢化、親亡き後を見据え、障害者児の生活を地域全体で支える体制の構築が急務となっています。そのため、地域生活支援に必要な緊急対策ができる機能について、香川県でも昨年度を通して、行政を中心に各圏域ごとで検討が重ねられました。この中讃西部圏域では、既存の施設等が機能を分担し、連携を図っていくという方向で検討されており、機能としては 24 時間及び夜間・緊急時の対応、障害福祉サービス等の利用歴がない方を支援サービスに結びつけるまでの措置等が考えられています。

この法改正に向かって地域福祉はますます推進されることと思います。相談支援事業所はなぞでは、事業所や相談支援専門員の質を向上させることで、それらを地域に根差したものとするとともに、利用者様の伴走者として、日々点検、研鑽を怠らず、各事業所のサービス提供責任者、サービス管理責任者をはじめ、地域全体と協働、信頼関係を築きながら、利用者様一人一人の安心した生活を目指していきたいと思ひます。

《編集後記》

立春とは名ばかり、寒さがいっそうつもの今日この頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。1 面でもふれました通り、三船病院では平成 29 年 5 月 31 日をもちまして院内全面禁煙となります。現在ある 6 つの病棟、そしてデイケア・デイナイトケアを含む外来部門、隣接する施設(花園荘の通所・入所部門)、ワークサポートセンター三愛を対象の範囲と考えております。今回レイクビューの禁煙化は見送ることになりましたが、皆さまの健康の観点から、今後喫煙者が減っていくことを望んでいます。

喫煙は予防可能な単一で最大の病気の原因といわれています。肺癌を含む多くの癌、心筋梗塞などの循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、歯周疾患、その他様々な病気や健康障害の原因です。しかし禁煙することによってこれらの疾患や死亡を確実に減らすことができます。これを機に皆さま禁煙にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

喫煙される方へはたいへんご不便をおかけすることと思ひますが、皆さまの健康を守るためご理解とご協力をよろしくお願い致します。

(三船病院相談室PSW)